

2022年度事業計画

北海道エアポート株式会社

■取組方針

- 空港ビル会社等との組織統合により7空港上下一体運営が開始する2022年度において、安定した事業体制を構築するための取組を加速させ、安全・安心かつ効率的な空港運営を推進します。
- 新型コロナウイルスの感染拡大防止に継続して取り組むとともに、with・afterコロナにおける新しい航空・観光需要の掘り起こしを行いながら、早期の需要回復に努めます。
- 需要回復に備えた成長基盤確立のための投資計画の着実な遂行に加え、将来的に選ばれる空港を目指し、空港施設の利便性・安全性向上に取り組めます。

■2022年度の業績見通しの考え方

- 新型コロナウイルスの感染拡大は、日本のみならず世界各国においても収束の兆しが見えておらず、旅客需要の見通しは不透明な状況となっております。
- そのため、2022年度の業績見通しにおいては、今次策定した当社の目標値であるケース①に加え、旅客需要の下振れを織り込んだケース②を策定しております。
- 旅客需要が下振れたケース②の場合においても、7空港の安定した事業実施を行うべく、各種資金繰り施策を検討・実施して参ります（なお、国・株主をはじめとした各ステークホルダーの支援等により、事業運営に必要な資金は確保する見込みです）。

2022年度の業績見通し

■ 旅客数想定 : ケース① ※コロナ前への回復率（2019暦年比）：国内線85%、国際線11%

		新千歳	稚内	釧路	函館	旭川	帯広	女満別	7空港合計
旅客数 (万人)	国内線	1,732.8	15.3	87.1	154.7	81.1	55.0	84.1	2,210.1
	国際線	44.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	44.9
	合計	1,777.7	15.3	87.1	154.7	81.1	55.0	84.1	2,255.0

■ 旅客数想定 : ケース② ※コロナ前への回復率（2019暦年比）：国内線50%、国際線0%

		新千歳	稚内	釧路	函館	旭川	帯広	女満別	7空港合計
旅客数 (万人)	国内線	1,022.3	9.3	51.5	91.9	47.8	32.5	49.8	1,305.2
	国際線	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	合計	1,022.3	9.3	51.5	91.9	47.8	32.5	49.8	1,305.2

■ 貨物量想定

	新千歳	稚内	釧路	函館	旭川	帯広	女満別	7空港合計
貨物量 (百t)	1,477	0.8	18	49	46	18	13	1,622

■ 損益計画 (億円) : ケース①

営業収益	648
売上総利益	328
営業費用	498
営業損益	▲170
EBITDA (注)	41

■ 損益計画 (億円) : ケース②

営業収益	419
売上総利益	238
営業費用	496
営業損益	▲258
EBITDA (注)	▲47

(注) EBITDA : 営業損益に減価償却費を足し戻した経営指標

目標達成に向けた主な取組み①

安定した事業実施体制の確立、安全・安心かつ効果的・効率的な空港運営の推進

■ 空港運営事業・ビル施設事業等

- 空港運營業務のノウハウ習得を目指した教育プログラムの充実やモニタリングの着実な推進等による7空港の安定した事業実施体制の確立
- 空港ビル会社等の統合を通じた空港運営事業とビル施設事業等の一体的な経営・運営体制を踏まえ、新技術の活用及びバンドリング効果による収益力の向上や効率的な運営の検討
- 「北海道オペレーションセンター」の機能向上、リスクマネジメント体制の強化やサイバーセキュリティ対策の実施等、7空港一体運用による安全・保安の維持・向上

■ 地域との連携・共生

- 7空港一体運営協議会及び空港別協議会の運営を通じた、地域一体での空港運営体制の構築
- 地元自治体の要望を踏まえた地域共生事業の着実な推進
- 航空需要の喚起に向けた地元自治体等と一丸となった連携施策の実施

航空・観光需要の回復に向けた取組み

■ 航空ネットワーク拡大

- 7空港一体での航空営業およびマーケティング戦略の推進
- 着陸料等の割引制度・インセンティブを活用した航空需要回復に向けた取組みの推進
- 北海道と日本各地・世界を繋ぐ物流確保に向けた旅客機貨物便等の誘致
- 運休路線の復便や新規就航等の就航機会を逃さない受入環境の整備

■ 広域観光の振興

- 北海道・北海道観光振興機構との官民連携プロジェクト「HOKKAIDO LOVE!」や、国や自治体、DMOとの連携及び、役割分担による全道一丸としての展開
- with・afterコロナを見据え、早期の需要回復が期待できる既存路線・チャーター便の就航エリアを中心とした誘客プロモーションの実施
- 海外インバウンド需要に対しても復便状況を踏まえてターゲット国を絞り、SNS等を活用した情報発信や海外旅行博への出展など官民連携による誘客活動を展開
- 道内の観光トピックス（縄文遺跡群世界遺産登録、日高山脈・襟裳国立公園化、ATWS2023リアル開催など）を意識した観光資源の洗い出し・磨き上げに加え広域周遊観光を推進

目標達成に向けた主な取り組み②

空港施設の利便性・安全性向上に向けた施策の推進

■ 7 空港共通

- ・ 安全・安心な空港運営に資する滑走路、誘導路、航空灯火、照明設備、電源設備等の更新に係る設計及び工事

■ 新千歳空港

- ・ ハイドラント（埋設管給油方式）設備拡張工事の継続
- ・ C駐車場拡張設計及び工事の継続
- ・ 国内線施設等空港ビル改修に係る設計の着手
- ・ 国際貨物ビル施設庇設置に係る設計の着手 等

■ 稚内空港

- ・ 国内線施設改修に係る設計の着手

■ 釧路空港

- ・ 国内線施設改修に係る設計の継続

■ 函館空港

- ・ 国内線施設改修に係る設計の継続
- ・ 駐車場拡張に係る設計の継続

■ 旭川空港

- ・ 国内線施設改修に係る設計の着手
- ・ 駐車場拡張に係る設計の継続及び工事の着手

■ 帯広空港

- ・ 国内線施設改修に係る設計の着手
- ・ 立体駐車場を含めた駐車場整備及びカーブサイド再編等の施設整備に係る設計の継続

■ 女満別空港

- ・ 国内線施設改修に係る設計の継続

【航空灯火更新(LED化)参考写真】



【新千歳空港C駐車場の現況写真】



投資計画

FY2022投資計画		機能維持投資	活性化投資	合計	主な投資内容
投資額合計		89.9億円	22.4億円	112.3億円	
本社	エアサイド	0.0億円	0.0億円	0.0億円	<機能維持投資> エアサイド：空港基本施設、空港用地等の維持管理・更新等
	ランドサイド	8.2億円	4.0億円	12.2億円	
新千歳 (含むCFF)	エアサイド	16.9億円	7.1億円	24.0億円	ランドサイド：旅客ビル施設に関する修繕・更新、テナント関連工事等
	ランドサイド	39.4億円	8.0億円	47.4億円	
稚内	エアサイド	0.5億円	0.0億円	0.5億円	<活性化投資> 新千歳空港：国際線ハイドラント整備、C駐車場整備 等
	ランドサイド	0.2億円	0.2億円	0.4億円	
釧路	エアサイド	6.0億円	0.0億円	6.0億円	稚内空港：国内線施設改修設計 釧路空港：国内線施設改修設計
	ランドサイド	1.3億円	0.7億円	2.0億円	
函館	エアサイド	2.7億円	0.1億円	2.7億円	函館空港：国内線施設改修設計、駐車場拡張設計 旭川空港：国内線施設改修設計、駐車場拡張設計・工事
	ランドサイド	2.6億円	0.6億円	3.2億円	
旭川	エアサイド	8.0億円	0.1億円	8.1億円	帯広空港：国内線施設改修設計、駐車場整備・カーブサイド再編設計 女満別空港：国内線施設改修設計
	ランドサイド	0.4億円	0.0億円	0.4億円	
帯広	エアサイド	1.1億円	1.0億円	2.1億円	<IT投資（活性化投資含む）>
	ランドサイド	1.6億円	0.0億円	1.6億円	
女満別	エアサイド	0.9億円	0.0億円	0.9億円	7空港全般：サイバーセキュリティ対策、HOC、AODB等 7空港統合に向けた各種ネットワーク整備
	ランドサイド	0.0億円	0.7億円	0.7億円	